

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875203206		
法人名	社会福祉法人 博愛福祉会		
事業所名	小規模デイサービスカラー富士見ヶ丘		
所在地	神戸市西区富士見ヶ丘1-13-9		
自己評価作成日	平成30年2月16日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設・デイサービスに行くという事ではなく、顔馴染みの方に会いに出かけるという感覚で利用していただける様
 アットホームな空間作りを意識しています。
 特にプログラムを設定はなく利用者様の行いたい事や以前行っていたが行えなくなった事を再度行える様に
 支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街に立地する、一軒家改築型の少人数の通所介護事業所である。友人宅を訪問するような感覚で利用できる、家庭的な雰囲気大切にしている。梅やみかん等の木・プランターの季節の花・畑の野菜づくり・戸外でのお茶等が楽しめる庭もある。日々の散歩・買い物、花・野菜の園芸、家事参加、制作等と共に、年間行事予定による、外出・外食行事、ピザ・うどん・餃子・恵方巻等利用者と共に手作り調理する特別食づくり等、利用者の希望を叶え生活リハビリにもなるような活動を積極的に採り入れている。経験豊かな職員・介護福祉士の比率が高く、看護師の配置もあり、専門性のある支援が行える体制である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	平成30年2月17日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型としてまだまだ地域に認知されていないと思います。運営推進会議にて民生委員の方から提案された、富士見ヶ丘地区の新聞に事業所の広告の掲載を依頼予定である。今後は事業所にて、介護保険の勉強会や認知症サポーターの研修等も検討し地域の方にも参加していただける要に働きかけていきます。	事業所独自の理念をつくり、「地域の方との交流を深め、さらなる地域情報発信基地となるよう」という、地域密着型サービスとしての意義を盛り込んでいる。	職員をはじめ、利用者・家族・来訪所にも周知し、共有できるように、玄関・スタッフルーム等に掲示することが望まれる。また、事業計画に盛り込む、年間・月間目標に盛り込む等、理念の実践見に向けた計画的な取り組みと、実践状況を確認するための振り返りの機会を定期的に設けることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流はまだまだ薄い状況である。自治会等への参加も検討し地域との交流の場を増やせる様に活動していく。	買い物・散歩・郵便局等、利用者が地域に出かける機会を設けている。民生委員の協力を得て、地域の周知と理解が得られる取り組みを検討している。認知症近隣地域でのサポーター研修の講師を行う等、地域貢献にも努めている。ネットワーク会議に参加し、地域で共通する課題解決にも協働して取り組んでいる。	今後も、自治会や民生委員と連携し地域交流や地域貢献に取り組まれることが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ数回しか行えていませんが、認知症サポーター研修を近隣の地域で講師として行った事がある。今後は事業所で開催する機会を設け、地域の方に参加していただける様働きかけていきたい。		

小規模デイサービスカラー富士見ヶ丘

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて提案された事については事業所に持ち帰りスタッフと共有し、サービスの向上に繋げられる様、努めています。	利用者・家族・民生委員・地域包括支援センター職員・他事業所管理者(知見者)を構成メンバーとし、6ヶ月に1回開催している。会議では、資料をもとに、利用者や事業所の状況・活動・取り組み等を報告し、参加者からの質問に回答して、事業所についての理解を深めている。また、地域への情報発信の方法についての提案や、認知症カフェについての情報等、参加者からの提案・情報を運営やサービスに反映している。	議事録の設置など、運営推進会議の主な内容を、公開することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所にて新たな加算やサービス等を行う際に密に連絡を取り合っている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、事業所の状況や取り組みを伝え、助言・情報を得て連携している。西区デイサービス連絡会・地域ネットワーク会議で、区の職員や地域包括支援センター職員と連携する機会もある。集団指導に参加し、また、窓口でも相談し、法令解釈や運営について情報や助言を得ている。福祉的支援を要する利用者について、区の担当者と協働して支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在まで身体拘束に関する事は行っておりません。また、スタッフにも緊急時以外は行わない様に伝達しています。	契約書に身体拘束を行わない方針を明示し、契約時に利用者・家族に説明し、身体拘束をしないケアを実践している。法人研修に管理者が参加し、研修資料を全職員に配布し周知を図っている。玄関は施錠せず、庭にも出ることができ、閉塞感のない環境を整備している。気になる言葉かけがあれば、管理者が注意を促している。	研修内容の周知が確認できる仕組みづくりを期待する。

小規模デイサービスカラー富士見ヶ丘

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関するビデオの視聴や研修での資料の配布を行っています。また入浴時等に身体に異常や自宅での様子に変化があれば、報告・ケース記録への記入を行い、CM等への報告を行う様になっています。	法人研修に管理者が参加し、研修資料を全職員に配布し周知を図っている。また、神戸市作成のDVDの視聴を勧めている。気になる言葉かけや対応があれば、管理者が注意を促し意識向上に努めている。日ごろから話しやすい職場環境づくりに努め、また、課題や困難ケースをスタッフ会議で共有し、職員がストレスを抱え込まないように配慮している。送迎時等に家族の心身の状況や家庭状況に留意し、過重な介護負担などがあれば、介護支援専門員に報告している。入浴時等には利用者の身体状況に留意し、事業所内外での虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている。	研修内容の周知が確認できる仕組みづくりを期待する。
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学んだ事について資料配布を行っていますが、より深く知る為には専門の方の指導が必要と思われるので、今後専門の方からの指導・講義を検討していきたい。	権利擁護に関する制度について学ぶ機会を設けるには至っておらず、制度の理解については、職員間で差がある状況である。現在、成年後見制度を活用している利用者があり、事業所として支援している。今後も利用を必要とする事例があれば、管理者が介護支援専門員に報告し支援する仕組みがある。	権利擁護に関する制度について、一定レベルの知識を得ることが出来る研修機会を設けることが望まれる。また、パンフレット等を準備しておいてはどうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等には書面上の説明だけではなく、その場で疑問や質問を伺っています。また後日疑問があれば、連絡を頂く体制を取っています。	契約時には、契約書・重要事項説明書・個人情報利用同意書・写真についての使用同意書・リスク説明書等を用いて説明し、同意を得ている。契約内容の改定の際には、変更部分を説明した文書で、大幅な変更がある場合には、契約書を新たに作成し同意を得ている。質問が多い単位や利用料金についての説明は、具体的にわかりやすく説明するように努めている。	

小規模デイサービスカラー富士見ヶ丘

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議等以外で直接要望があった際は検討し、CM・関係部署と連携を取るようになっています。	利用者の意見・要望は日々の会話の中で把握し、「ケース記録」ノートに記録し、内容に応じて介護支援専門員と連携しながらサービスに反映している。家族の意見・要望は、主に、サービス担当者会議や送迎時等に把握し、個別の内容が多いため、迅速に個別対応できるように努めている。毎月color通信を発行し、デイサービスでの様子を伝え、意見・要望が表しやすいように取り組んでいる。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議や申し送り時等に意見や提案を聞く機会を設けています。	月に1回スタッフ会議を開催し、ほぼ全職員が参加して意見・提案を出し合って話し合い、管理者、時にはエリア長も参加して把握している。欠席者には議事録を配布して周知している。随時個人面談を行ったり、法人に意見申請書を提出して、個別に意見・提案を表す機会もある。業務改善・書式の統一・物品購入等、職員の意見が積極的に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課等で職員の状況等を聞き取ってくれている。エリア長からの聞き取り等もあり、上司と関る事も多い。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や勉強会へ参加し、その研修資料などのスタッフに配布しています。管理者以外のスタッフにも受けてみたい研修があれば参加してもらえよう様支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在神戸市西区デイサービス連絡会に参加しております。3月12日より作品展展示会に出展・参加予定です。		

小規模デイサービスカラー富士見ヶ丘

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを提供する前に可能であれば、事前に面談を行う様にしています。初回での聞き取りが不十分な時は、継続して話を聞くようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを提供する前に可能であれば、事前に面談を行う様にしています。遠方に住まわれているためお会いできない方は、電話でお話を聞くこともあります。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新規で介護保険のサービスを利用される際は、利用者様・家族様の意向を聞き、別のサービスの導入後望ましい時は提案を行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	必要以上の介助は行わず、出来る限り利用者様の持つ力や能力を生かしていける様支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の要望を聞き、カラーで行えていることを自宅でも継続して行えるよう支援しています。その際には家族様の状況等を考慮し負担増にならない様に様注意しています。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	サービスを提供するにあたって、利用者様の関係性や関りは崩さないように配慮しております。	契約時に把握した馴染みの人や場所についての情報は、アセスメントシートの「生活歴」に、日々のコミュニケーションで把握した内容は「ケース記録」ノートに記録している。把握した内容を、支援に反映できるように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	小規模のデイサービスということもあり、多くの利用者様が顔馴染みであり、協力し支えあっていると思います。		

小規模デイサービスカラー富士見ヶ丘

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても本人、家族様からの要望があれば支援する様努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの要望等の把握に努め、利用者様から要望等があった際は、CM・家族様に連絡しています。	契約時に把握した利用者・家族の思いや意向は、アセスメントシートの「利用者の希望・家族の希望欄」に、日々の会話などから把握した内容は、「ケース記録」ノートに記録し、支援や通所介護計画に反映している。把握が困難な利用者については、家族からの情報を参考にしたり、表情・反応から汲み取ったり、また、ボードや筆談を用いる等、個別の配慮により把握に努めている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス提供前に可能であれば事前に面談をこない状況の把握に努めています。本人だけではなくケアマネージャー、家族からもお話を聞くようにしています。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状態等の現状の把握に努め、状態に変化があれば、家族、ケアマネージャーに報告、連絡、相談を行う様に行っています。		

小規模デイサービスカラー富士見ヶ丘

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)		<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>サービス担当者会議等以外でも利用者様・家族様のお話や状態を見ケース記録に記入し、こちらから提案を行うことや、計画書への反映を行っている。今後はスタッフ会議時に更新の近い方の会議を行っていく。</p>	<p>サービス担当者会議に参加し、利用者・家族の意向・要望の把握と情報収集を行っている。事業所独自のアセスメントシートで課題抽出し、居宅サービス計画書を基に通所介護計画書を作成している。サービスの実施記録はシステムに入力し、「連絡ノート」にも連動している。内容に応じて、利用者個々の「ケース記録」ノートにも記録し情報共有を図っている。ケアカンファレンスが必要な場合は、月に1回開催するスタッフ会議で検討している。定期的には、居宅サービス計画書見直し時に、サービス担当者会議に参加して通所介護計画書の見直しを行っている。</p>	<p>下記の取り組みが望まれる。 ・通所介護計画書に、ニーズを明示すること。 ・通所介護計画書のファイルで意識付けを行う等、通所介護計画の内容の周知を図る工夫すること。 ・計画に基づいたサービス実施が明確になる記録をするために、記録の入力について、職員に共通理解を図る指導を行うこと。 ・定期的に(3ヶ月に1回程度)モニタリングを実施し、サービスの実施状況・目標の達成度・評価を把握し、通所介護計画の見直しに反映すること。 ・通所介護見直しの際には、再アセスメントを行い、新たな課題の有無の確認すること。</p>
27			<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人別のケース記録用ノートを作成しています。些細な事でも記入し、報告が必要な件は家族、ケアマネージャーに連絡を行い、見直しに活かす様にしています。</p>	/	
28			<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>一事業所での対応が困難な時は、他事業所と連携し、柔軟な対応が行えるよう支援しています。</p>	/	
29			<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>利用者様が生活している環境や地域資源を活かす事が出来るよう支援しています。今後は地域の方との交流も行えるよう支援していきたい。</p>	/	

小規模デイサービスカラー富士見ヶ丘

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は利用者様の主治医をご利用されています。身体の状態に変化があれば、家族様・CMに報告し受診時に診てもらう様依頼しています。	契約時に、利用者個々のかかりつけ医を把握し、アセスメントシートに記録している。事業所では、バイタルチェック・服薬介助等を行い、体調の変化等があれば、家族や介護支援専門員を通して、かかりつけ医と連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が出勤時に心身に変化あった方の状態を確認してもらい対応しています。家族、ケアマネージャーに連絡し、主治医や訪問看護師等に報告、相談していただく様支援しています。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、CMを通じて状態などを伝えるようにしています。また退院時は退院時は看護サマリーを取り寄せ、情報の共有を行う様にしている。	入院時は、要請があれば情報提供を行っている。入院中は、家族・介護支援専門員を通して状況の把握に努めている。退院時には、看護サマリーを取り寄せ、利用再介護おの支援に反映している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化の方については、住宅回収等の提案等をCMを通じて提案しています。また終末期の方に関しては関係各所と意見の交換を行う事としています。	重度化・終末期については、医療面・設備面等で、事業所で出来ること・出来ないことを説明したうえで、可能な限り利用が継続できるように支援する方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアル等を作成しています。今後はマニュアルを元に訓練を行う機会を増やしていきます。また看護職からの初期対応の勉強会等も行っていきたい。		

小規模デイサービスカラー富士見ヶ丘

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応はマニュアルを作成し、職員に閲覧してもらっています。	年に2回の避難訓練を実施し、29年度は年度内に2回目の訓練を予定している。昼間想定で、利用者も参加して、通報・避難訓練を実施している。参加できなかった職員には、管理者が伝達している。訓練の実施記録には、利用者毎の避難方法を記載している。スポーツ飲料・若干の食料を備蓄している。	実施計画書・報告書の提出、消防署の立ち合い、消火訓練等について、消防署の助言を受け、連携を図ることが望まれる。また、必要な備蓄品をリスト化し、管理することが望まれる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修の資料を配布し、一人一人の人格を尊重する言葉掛けを意識し業務にあたっています。	接遇についての法人研修に管理者が参加し、研修資料を全職員に配布し周知を図っている。尊厳やプライバシーを損ねない言葉かけや対応については、管理者が留意して職員の意識向上に努めている。個人ファイル類は鍵のかかるロッカーで保管し、個人情報利用同意書・写真についての使用同意書・守秘義務の誓約書等を整備し、個人情報の適正な管理に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらから提案することもあります。基本的には利用者様本人に自己決定して頂いています。利用者様の希望等も出来る限り引き出せるよう心掛けています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まったプログラムを設定はせず、その方がしたい事を行える様に支援しています。状態に応じて休憩を取っていただく様に声掛けを行っています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に服装は利用者様の意思を尊重しています。季節感に合わない服装の際はこちらから声掛けを行うこともあります。			

小規模デイサービスカラー富士見ヶ丘

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者様と一緒に作る事もあります。また決まったメニュー以外にも利用者様に話を聞き、特別食等を行う事もあります。	献立に沿った食材が届けられ、アレンジを加えながら手作りの食事を提供している。ピザ作り・うどん作り・餃子作り・鍋パーティー・恵方巻作り等、行事食の際には、買い物・調理に利用者も参加している。敷地内で収穫した、梅・みかん・サツマイモ等も、利用者と一緒に活用している。誕生日は、利用者毎にケーキでお祝いしている。外出の際には外食を楽しむ機会もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在食事摂取量は利用様全員記入しています。水分量に関しては、特定の利用者様のみしか行っていませんので、今後は全員を対象として行っていくことを考えています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	希望される方には、歯磨き・嗽の声掛けを行っています。今後は口腔ケア加算算定に向けて体制作りを行う予定です。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在トイレは自立から一部介助の方が利用されています。一部介助の方に関しては、定期的に声掛けを行いトイレ誘導を行っています。	現在、排泄について自立している利用者が多い。必要な利用者については、排泄チェック表で排泄状況・排泄パターンを把握し、声かけ・誘導・一部介助の支援を行っている。同性介助を基本とし、出来ないところのみの介助、ドアの外での待機等、プライバシーや羞恥心への配慮について周知を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方は水分摂取量の確認等を行っています。家族様からの要望があれば、看護職員出勤時に排便を行っています。		

小規模デイサービスカラー富士見ヶ丘

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在入浴の順番が決まっている様な状態ですが、できる限り利用者様のタイミングに合わせるようには調整を行っています。	通所介護計画に沿った入浴支援を行い、体調や希望に応じて臨機応変に対応している。個浴で1対1の同性介助を基本とし、利用者の状態に応じて安全確保のため、2人介助で支援している。利用者毎にさら湯にし、ゆず風呂・菖蒲風呂で季節を楽しんだり、好みの入浴剤が選べる入浴剤週間を設ける等、入浴がより楽しめるように工夫している。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後等に休息の時間を設けています。また臥床の時間が必要と思われる方には、本人様に声掛けを行い臥床の時間も設けています。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の介助が必要な方は確認を行っております。また服薬の状況で心身変化があればCM・家族様等に報告しております。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が行いたい事を支援できるように取り組んでいます。その方が行いたい事は家事活動等も支援しています。		
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に2回買い物外出・月に1回外出・外食行事を実施しています。また要望があれば、郵便局などへの同伴も行っています。	日常的には、事業所周辺の散歩・月2回の買い物外出・希望に応じた近隣への外出に出かけている。月に1回外出・外食行事を企画し、道の駅・ナナファーム・フラワーセンター・工場見学等、普段は行けないような場所にも出かけられるように支援している。	

小規模デイサービスカラー富士見ヶ丘

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物外出時等は利用者様に支払いをしていただいています。その際は職員が見守りを行う様支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと依頼があれば電話番号の確認を行い掛けていただいています。手紙に関してはポストに出し行きたいと依頼があれば、同伴して出しに行っております。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快・混乱を招かないよう注意しています。室温については温度・湿度計を設置しております。また季節ごとの花等を用意し季節を感じていただけるようにしております。	住宅地の中の一軒家を改修したデイサービスであり、友人宅を訪問するような感覚で利用できる、家庭的な雰囲気を大切にしている。共用空間に、食事のスペース・くつろげるリビングスペース・静養室がある。壁に手作りのロールピクチャーやちぎり絵を飾り、季節感を大切にしている。庭に、梅・ミカン等の木、野菜を栽培している畑、季節の花のプランターがあり、気候のいい時期には野外でお茶や食事を楽しむ機会も設けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には一人で過ごせる、ソファー等を配置して過ごすことが出来るよう支援しています。また臥床を希望される方は、別室に2台ベッドを配置し対応しています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が使い慣れた物を使用していたいただいています。例としては皆様愛用の座布団・クッション等があります。	廊下を隔てた静養室にベッドを2台設置し、静かに静養できるスペースがある。希望があれば、週末に1名の宿泊を受け入れることが可能である。	

小規模デイサービスカラー富士見ヶ丘

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限り自宅に近い環境での生活を行う事で利用者様自身のに身体の状態等を把握していただける様支援しています。		